

神代三陵 延喜式曰、日向埃山陵、天津彦火瓊瓊杵尊、日向高屋山上陵、彦火々出見尊、日向吾平山上陵、彦波瀲武■艸不葺合尊、已上神代三陵は、於山城国葛野郡田邑陵 南原一祭之、其兆域東西一町南北一町云々。〔此三ツの陵今詳ならず。文徳帝の陵の南二町ばかり田の間に小塚一ツあり、是陵の残る所か。又件の塚の乾二十余間路傍の南面に小祠あり是又神陵を祭る所か。後考あるべし〕

大梅山長福寺

〔東梅津にあり〕禪宗にして、仏殿の本尊は迦釈仏、脇士は普賢、文珠、表門の額は長福寺と書し

て世尊寺忠季卿の筆、仏殿の額は祈祷とありて筆者詳ならず。開基は月林大幢国師、大元国に入て法を茂古林に嗣、かの国において仏恵智鑑大師と号す、是則大元の文宗帝の勅号なり。又普光大幢国師とも号す、滅後七年に及で後村上院の勅号なり。又花園院も御帰依あり。即ち比帝の御塔所を別伝院とも大宝輪とも号す。宸影の画図当寺にあり、上の御讚は御宸翰なり〕

予之陋質法印豪信 〔御讚かくの如し、宸影は故為信卿息図する所なり〕

于時曆応改元無射之候也

開山塔を円明と号す、同所清凉院にあり。

抑当寺の初は天台宗にして、真理といふ女僧の建立なり。それより年久しくして、此里に梅津左衛門清景といふ者あり

て、月林和尚を尊信す、其時清景当寺を領し、忽和尚に附与して禪刹となすなり」

梅津左衛門塔〔長福寺の門外半町ばかり南にあり〕

山之内〔三条の西、千本より十四五町にあり。此所にしへ大内裏の御時、長安の封境なり。往昔は比叡山の座主良真の領内なり。故に山之内と号す、今村の名とす。則草堂に伝教大師の画像あり。又里の西端に山王祠あり、今山之内庚申とて群參す、靈驗いちじるし〕

徳成寺〔山之内街道の西はづれ南側にあり。洛陽西六条興正寺の懸所なり。古親鸞聖人愛宕月輪寺へ詣し給ふとき、此ところにやすらひ給ふ旧跡なりといふ〕

西院〔四条の西、千本より西六町ばかりにあり。本名淳和院、拾芥抄曰、橘太后家とあり、